

27PB-am128

石垣島産セイタカスズムシソウの繁殖戦略と種子の発芽特性

○邑田 裕子¹, 谷田 有花¹, 西澤 卓¹, 柿嶋 聡², 邑田 仁³ (¹摂南大薬, ²静岡大創科, ³東大院理)

【目的】沖縄島から台湾にかけて分布するキツネノマゴ科セイタカスズムシソウ (アリサンアイ) *Strobilanthes flexicaulis* では地域的な形態・生態的分化が認められる。石垣島産の個体について、繁殖戦略と種子の発芽特性を検討した。

【方法】摂南大学薬学部附属薬用植物園で栽培している石垣島産セイタカスズムシソウについて開花・結実の状態を観察した。得られた種子について播種の条件をいろいろと変えて発芽試験を行った。

【結果・考察】沖縄本島産のセイタカスズムシソウでは六年に一回の一斉開花と開花後の株の枯死が知られている。前回の一斉開花は 2009 年冬から 2010 年春であった。これに対し八重山諸島産のものはこの周期に従わず、また完全枯死しないことが推定されている。温室内で栽培している石垣島産の個体が 2012 年冬から 2013 年春に開花したが、現地での観察からの予測通り、開花した後の個体は枯れず一部が生き残り、2013 年の冬から 2014 年春にかけて再度開花・結実した後に枯死した。果実には通常 4 個の種子が入っているので、種子の重量を測定し、2013 年は播種迄の日数を変えて発芽率を測定した。その結果、播種迄の日数が 10 日未満の場合発芽率が一番良く、ついで 20 日、40 日未満の場合が良かった。2013-14 年も植物体のサイズは小さいが、開花・結実した後に種子を得ることが出来たので、全ての種子の重量を測定後 10 日以内に播種して発芽実験を行った。両年とも開花のピークは 1 月で、果実は主に 2 月から 3 月が成熟のピークであった。種子重量、発芽時期などと発芽率の関係では一定の結果が得られたので、これらについて詳しく報告する。沖縄本島産のセイタカスズムシソウとの違いについても考察する。